

はじめてなのに、なつかしい。 おいでませ山口へ

山口県は人口150万人。少子高齢化や人口減少という事態のなかにあっては、外からの需要を取り込み地域の活力や経済力を上げること大切である。それには定住人口だけでなく、「交流人口」を拡大するという視野から県づくりを進めなくてはならない。そして、その交流人口拡大の中核を担うものこそ観光である。一山口県は観光振興をこのように位置づけているのです。それ故「観光交流県」をめざすとし、豊かな自然や多彩な歴史文化など特色ある観光資源を活用した「観光交流の推進」を重点施策として進めているのです。

山口県は人口150万人。少子高齢化や人口減少という事態のなかにあっては、外からの需要を取り込み地域の活力や経済力を上げること大切である。それには定住人口だけでなく、「交流人口」を拡大するという視野から県づくりを進めなくてはならない。そして、その交流人口拡大の中核を担うものこそ観光である。一山口県は観光振興をこのように位置づけているのです。それ故「観光交流県」をめざすとし、豊かな自然や多彩な歴史文化など特色ある観光資源を活用した「観光交流の推進」を重点施策として進めているのです。

デステイネーションキャンペーンに取り組む

数をみると平成18年では253
ところで山口県の年間観光客
は251万人もの集客を得たこ
とで話題を集めただけでなく、
ボランティアスタッフなどの県

0万人と3年連続の増加となつています。とくに県外客の内訳を見ると、中国、九州という近隣県からの来客が3分の2を占めているものの、近年では関東や中部といった大都市圏からの観光客の割合が増えるといった傾向にあります。本年は「おいでませ山口デステイネーションキャンペーン」を軸にした観光振興に力を入れていくことにより、こうした動きを確かなものにしようとしています。

そういうえば山口県は平成13年に「山口きらら博覧会」を開催し見事な盛り上げをみせました。現在は山口市となつた阿知須のかいら浜で、79日間に渡り開催された地方博覧会です。ここで251万人もの集客を得たことで話題を集めただけでなく、ボランティアスタッフなどの県



キャンペーンロゴ

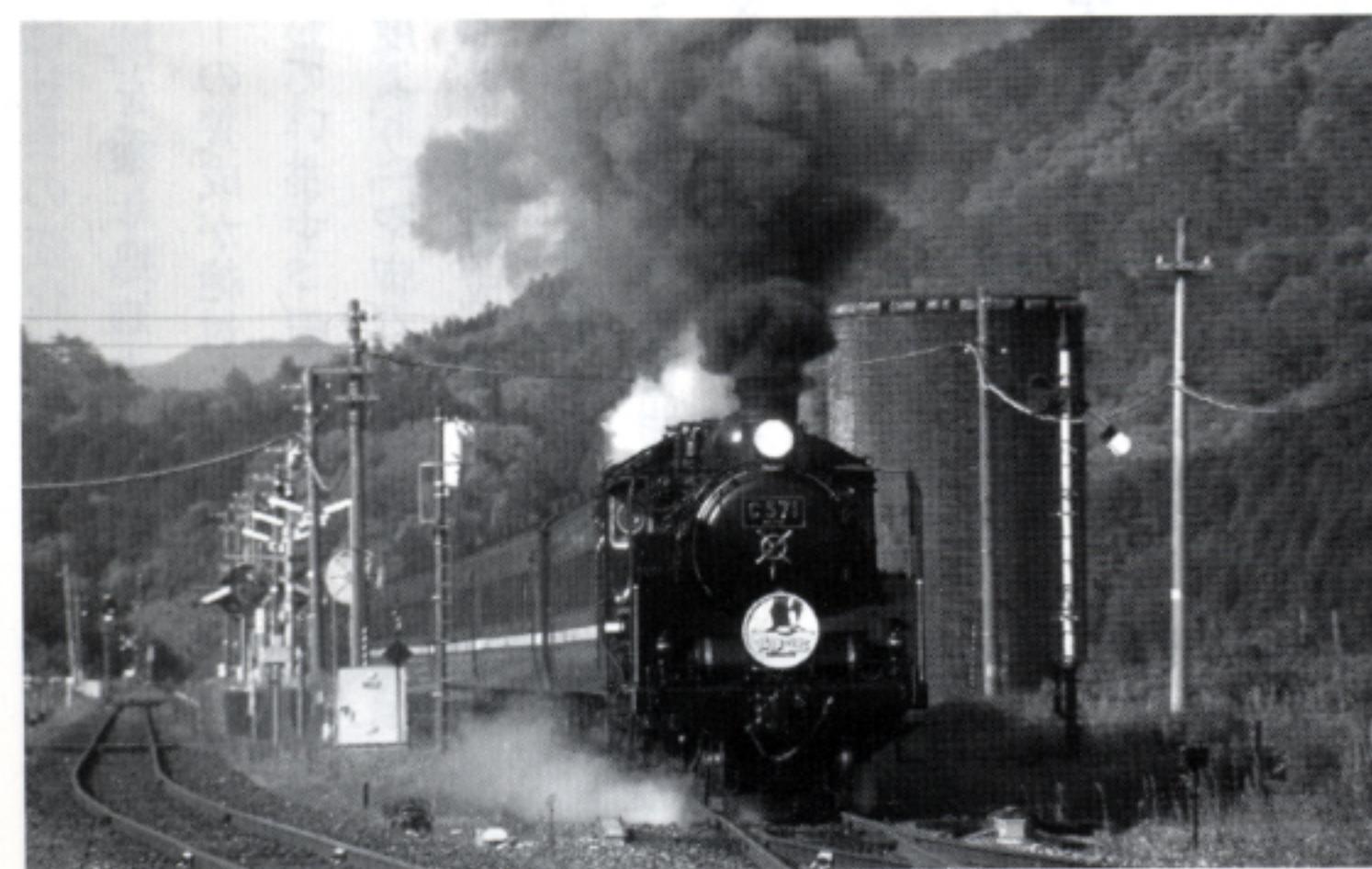
山
口
県



山陰観光列車「みすゞ潮彩」



エコツアー（秋吉台）



SL やまぐち号

幕末維新の長州の足音や田園風景も伝わる、人懐っこい呼びかけというべきでしょう。この事業は、JRグループ6社と連携して全国からの観光客誘致を行うもので、先の「山口きらら博覧会」と併せて行つた平成13年以來3回目の取り組みとなります。昨年秋からすでにプレキヤンペーンがなされており、例えば下関—長門間を走る山陰観光列車「みすゞ潮彩」では、童謡詩人金子みすゞの生まれた長門等の日本海の景観の美しい

場所に停車し、車内では紙芝居の上演なども開始されました。秋吉台ではエコツアーとして、秋吉台地域の自然や歴史文化を探索し体感するツアーモーを行われました。貴婦人との愛称で親しまれる「SLやまぐち号」も、大学生や旅館のおかみさんたちも参加しての度々のイベントが好评で、近年最高の乗車率を記録しました。このように、多くのお客様をお迎えしたいという新しい取り組みは大いに人気を博し、キヤンペーンモードも盛

り上がっています。

山口県は、こうした取り組みとも関連させながら、いま新しいコンセプトのもとに観光振興への工夫に挑戦し始めました。特に近年の観光ニュースや市場評で、近年最高の乗車率を記録しました。このように、多くの旅行から個人・グループ旅行への動向として「見る」観光から「参加」「体験」型観光へ、また団体旅行から個人・グループ旅行へという変化を感じ取つての挑戦です。こうした観光に関する二一

「地旅」づくりに取り組む

り上がってきています。

幕末維新の長州の足音や田園風景も伝わる、人懐っこい呼びかけというべきでしょう。この

秋吉台ではエコツアーとして、秋吉台地域の自然や歴史文化を探索し体感するツアーモーを行われました。貴婦人との愛称で親しまれる「SLやまぐち号」も、大学生や旅館のおかみさんたちも参加しての度々のイベントが好評で、近年最高の乗車率を記録しました。このように、多くの

お客様をお迎えしたいという新しい取り組みは大いに人気を博し、キヤンペーンモードも盛り上がってきています。

ズの変化に対応するため、「地旅」づくりなるものに積極的に取り組むこととしたのです。この「地旅」は(社)全国旅行業協会(ANTA)が着地型旅行商品の創出と流通促進のために打ち出したもので、山口県では、他に先駆けてこれを推進しようと試みているのです。

「地旅」とは、地酒、地魚と同じく、「当地ならでは」の旅のことなのです。伝統芸能や郷土料理などの生活文化や、石炭やセメントなどの地場産業、ある



かい曲がり(萩市)

域は石炭や石灰岩、大理石などを活用した「基礎素材型産業」が集積する工業地帯で、明治維新以来いち早く産業の近代化が進んだ歴史と特性をもつところです。この点に着眼し、行政や企業、市民グループの共同で商品化し、まちの姿を見てもらおうとするものです。全国的にも珍しい取り組みであり、ちなみに本年度から始まった「産業観光まちづくり大賞」(社)日本観光協会主催)の審査で賞賛され、特別賞に輝いています。

それにしても山口県では、魅力的な「選ばれる」観光地になる

いは赤瓦の家並みが続く集落の景観といった身の回りにあるものに着眼するのです。そしてそれから観光資源としての魅力を掘り起こして磨きをかけ、「産業観光」や「町並み散策」などの目的に沿った工程を作ります。それを地元住民が自ら現地ガイドとなつてもなし、地元しさをじっくり味わってもらおうというのです。

例えば美祢・宇部・山陽小野田地域においては、「産業観光」をテーマにした「地旅」づくりが既に進められています。この地域は石炭や石灰岩、大理石などを活用した「基礎素材型産業」が集積する工業地帯で、明治維新以来いち早く産業の近代化が進んだ歴史と特性をもつところです。この点に着眼し、行政や企業、市民グループの共同で商品化し、まちの姿を見てもらおうとするものです。全国的にも珍しい取り組みであり、ちなみに本年度から始まった「産業観光まちづくり大賞」(社)日本観光協会主催)の審査で賞賛され、特別賞に輝いています。

環境条件は確かに有利です。現

ためには社会の変化に敏感で、また地域を愛し熟知する観光リーダーの養成が絶対に欠かせないとしています。それゆえ平成17年度より「やまぐち観光交流塾」という人材育成事業も行っています。観光づくりはまさに「人づくりから」ということなのです。

中国、韓国との国際交流を活発化する

ところで山口県は地勢的にもアジアに近く、古くから大陸との交流の門戸となってきたところでした。よく言われることですが、東京までの距離は約1000kmであり、その距離を半径にして円を描けばその中には上海、青島、ソウルなどアジアの主要都市が包み込まれる近さなのです。こうした環境であるだけに、とくに近年急速に発展する中国、さらに安定した経済成長を続ける韓国など「東アジア」をキーワードとして、「人・モノ・情報」の交流を一層加速させていきたいと考えています。現



錦帯橋(岩国市)

に関釜フェリー、オリエントフェリー（下関—青島）といつたルートのみならず、昨夏に旅客便が就航した上海—下関フェリーが加わり、3つの国際定期航路が準備されているのです。また昨年末には台湾からの観光客を対象に、山口宇部空港を拠点に岡山空港と連携して連続チャーター便を受け入れ、新たな広域周遊ルートも開発されました。

とくに山口県は中国の山東省とは友好協定を結び25年を超えた。この一年で延べ1000人を超える外国人観光客がチャーター便で来県したのです。こうした実績を踏まえながら、さらにこの三県省道のネットワークをベースにアジア諸国との連携を深めていこうとしています。またきめ細かいところでは、中国・韓国の主要都市に進出している県内企業の海外事務所等に「おいでませ山口オフィス」を開き、観光・物産の情報を発信するとともに、現地の情報を収集するネットワークを構築していくこともしているのです。

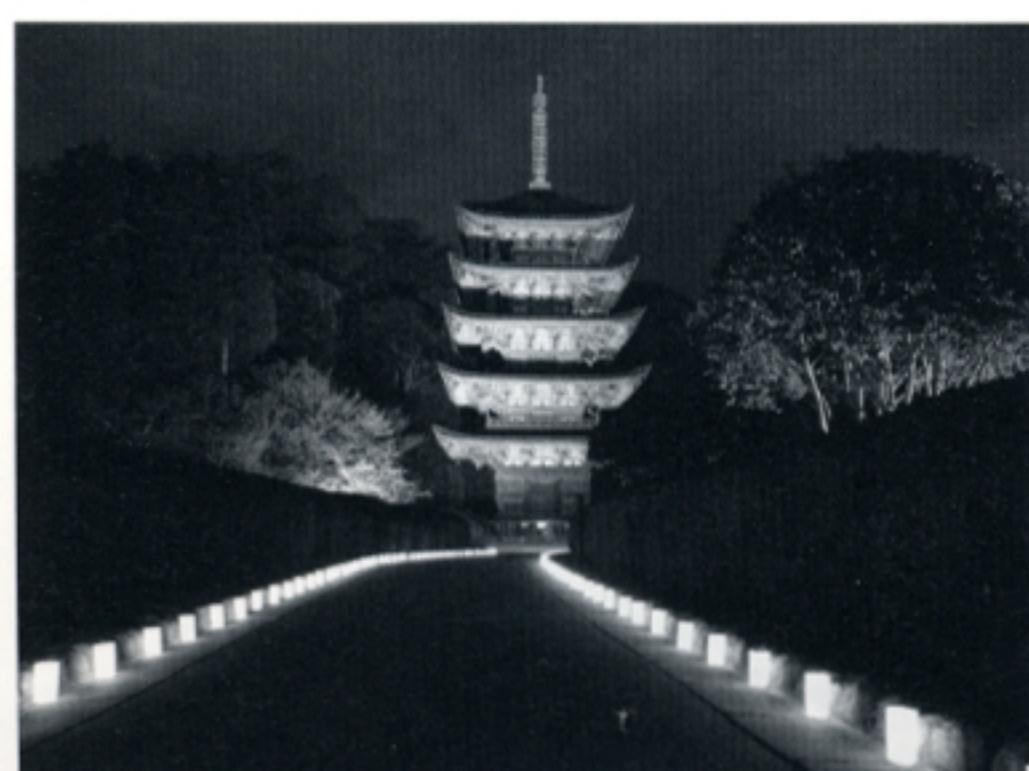
おりしも、3年後の平成23年（2011年）には山口国体が開催されようとしています。加えてそれに併せ「在外山口県人会世界大会」も開かれようとしています。これらを好機に、今後も日本各地からの集客を果たすとともに、世界の地域や世代を超えて幅広いネットワークを構築し、観光交流県としての一層の活性化を図っていこうとの意気込みが伺われるというもので

の日本初の鉄道開通等に尽力し「鉄道の父」と呼ばれる井上勝。彼らもまた国禁を犯し、仲間とともに総勢5人で英國に渡り長州5（ファイブ）の名を歴史に残しています。奇兵隊を結成した高杉晋作が上海を見て日本の開国を叫んだことはつとに有名です。その後の山口からはペルー、ブラジル、ハワイなどへ多くの先人たちが羽ばたいていきました。こうした県民の、世界に向かう進取の気性を山口の人々は今日まで色濃く継承し、それだけにそのことを大いに誇りとしているともいわれます。

明治維新という回天の偉業を發火させた萩出身の吉田松陰。彼は日本の将来を憂い、鎖国の禁を破りペリー艦隊に乗り込み米国に渡ろうとしました。明治の国家を完成させた同じく萩出身の伊藤博文や、新橋—横浜間

維新をなした山口を更に世界に広げていく

（編集部 ※本シリーズ（総括）嶋津隆文）



国宝瑠璃光寺(山口市)